

アスペクトの観点からみた 『袖珍 英和節用集』の動詞分類

呂 麗 敏

Classification of the Verb in the *Manual* of the Japanese and English Languages from the Viewpoint of Aspect

LUE Limin

Abstract: There are several kinds of classification of the verb in Japanese, for example, verbs can usually be classified into such categories as intransitive verb, transitive verb, or main verb, auxiliary verb, and others. On the other hand, considering a verb in its aspects of time, it should be possible to classify vocabulary in a different way, therefore a different classification will be commonly shown.

This paper reports the results of such classification about the verbal lexicon of the second edition of the *Manual of the Japanese and English Languages* from the fifth year of Meiji.

一. はじめに

朝日出版社が2002年に発行した『中国語学習辞典』を捲ってみると、「品詞分類について」のところに、この辞書で採用した品詞名は「名詞・動詞・形容詞・数詞・量詞・助動詞・前置詞・副詞・区別詞・代詞・感嘆詞・接続詞・助詞・擬音語」のとおりである。先頭の二品詞「名詞」と「動詞」に関して、その区別は現代言語学の調査結果により、古今のすべての言語に存在することが明らかである。従って、その文法範疇に現される区別もまたはっきりとしている。なぜならば、言語の文法的特徴は言語のコミュニケーション機能の特徴を凝縮していると言う本質から、言語において表出される対象としての事物と行為・動作の間にある時間表現上の区別は、当然的に名詞と動詞という2つの基本的文法範疇のそれぞれの文法的特徴に反映されているからである。

そのうち、動詞は文の中核成分になっている。日本語において、動詞の分類としては、自動詞と他動詞とに分ける方法、意志動詞と無意志動詞とに分ける方法、そして独立動詞と補助動詞とに分ける方法、完全

動詞と不完全動詞とに分ける方法などの外に、もう一つの分類方法を行うことができる。いわゆる時間的に見た動作・作用の種類による分類のことで、即ち基準時間における動作のありかたを表すカテゴリーであるアスペクトの観点からみた日本語動詞の分類のことである。

本論は明治初期洋学資料の一つである『袖珍 英和節用集』第二編（明治5年）（以下『袖珍 英和節用集』と称す、なお、本書の内容的書誌調査およびその成立の文献的考察について、呂「明治初期通俗英語辞書の成立考—『袖珍 英和節用集』第二編の場合—」『甲南国文』第四十五号、ないし『日本語学論説資料』第三十六号、第一分冊を参照。）を資料として用い、「追加熟語」の部分を一先ず除き、動詞全部を対象にして、動詞が動作・作用を表すとするならば、動作・作用の過程の時間的性質による表現方の区別の観点より、動詞の分類について、検討を試みることにする。

二. 『袖珍 英和節用集』の動詞分類

アスペクトの中には、構文上における「進行形」などのように外形上ははっきり区別のある文法的アスペク

トと、状態動詞、瞬間動詞、持続動詞などを区別する時に考えられるような、語義の内部に含まれている語義的アスペクトとがある。語義的アスペクトは文脈により変わりうる、例えば ‘He lives as a foreign student when staying at Nanjing in China’ では「起動的」であるが、“All past, pres(e)nt, and future Buddhas live Prajna Paramita” (『テイク・ナット・ハンの般若心経』棚橋一晃訳、壮神社、1995年、P15引用者注：(e)は引用者が付け加えたもの、以下同じ。)では「継続的」である。つまり動詞「Live」という状態、「He lives as a foreign student when staying at Nanjing in China’」では完了した状態であり、これに対して「“All past, pres(e)nt, and future Buddhas live Prajna Paramita”」では未完了なのである。

このように文法的な完了・未完了などアスペクトと、語義的アスペクトをはっきり区別して考えることが必要だと思われるが、本論文は語彙範疇のみにおけるアスペクトの観点より、『袖珍 英和節用集』の動詞を分類したものである。

1. 『袖珍 英和節用集』における動詞分布

まず、すべての動詞について、『袖珍 英和節用集』における分布実態を以下のように示す。分布の所在を示すのに、算数字は丁数、オ・ウは表・裏である。『袖珍 英和節用集』の単語の振り仮名の部分の「片仮名」は「平仮名」に用いなおす、なお、仮名遣いは原書のままで、現代仮名表記で50音順に配列する。そして、[いりこむ入り込ム To put in], [いりこむ入り込ム To turn in] とか [えりだす撰り出ス To look out], [えりだす撰り出ス To pick out] などのような場合にそれぞれ一動詞「入り込ム」、「撰り出ス」とした。

「あ」

あきないする商スル [84オ], あざむく欺ク [83ウ], あそび遊ビ [81オ], あたためる暖メル [83オ], あたふ与フ [84オ], あつめる集メル [83オ], あふれる溢ル [83ウ], あむ編ム [83ウ], あらす荒ラス [84オ], あらはす顕ハス [84オ], あらはす著ハス [84ウ], あらはす表ハス [84ウ], あらふ洗フ [84ウ]

「い」

いしや医者 [2オ], いす椅子 [1オ], いちきやう一行 [3オ], いちにち一日 [2ウ], いちねん一年 [2ウ], いちびやうじ一秒時 (一分時六十分ノ一) [3ウ], いちぶんじ一分時 (一時六十分ノ一) [3ウ],

いちまい一枚 [2ウ], いんらん淫乱 [3オ] いかる怒ル [3ウ], いきする呼吸スル [3ウ], いきておる活テ居ル [3オ], いけんする異見スル [3オ], いさめる諫メル [3オ], いじめるイジメル [2ウ], いそぐ急グ [4オ], いたむ痛ム [3オ], いたる至ル [3オ], いつはる偽ル [3ウ], いのる祈ル [3オ], いひけす言消ス [5ウ], いひつける言付ル [2ウ], いひぬけ言抜ケ [2ウ], いひはる言張ル [3オ], いゆる痊ル [3ウ], いらいする依頼スル [3ウ], いらこむ入り込ム [3ウ], いる射ル (彈丸ヲ) [3ウ]

「う」

うごかす動カス [56ウ], うちけす打消ス [57オ], うちころす打殺ス [57オ], うちすてる打捨ル [56ウ], うちすてる打棄ル [57ウ], うちすてる打捨ル [57ウ], うちたをす打倒ス [57ウ], ちはなす打放ス [57ウ], うちまかせる担任セル [57オ], うちやぶる打破ル [57オ], うつ打ツ [56ウ], うつむ埋ム (死人ナドヲ) [56ウ], うらむ羨ム [56ウ], うんそうする運送スル [57オ]

「え」

えらぶ撰ブ [77オ], えりだす撰り出ス [77ウ], えりのける撰り除ル [77ウ], えんいんする延引スル [77ウ]

「お」

おがむ拝ム [25ウ], おきそこなふ置キ損フ [27オ], おぎなふ補ナフ [25オ], おきる起キル [27ウ], おくる贈ル [27ウ], おこす起ス [27ウ], おこりたつ起り立ツ [25ウ], おこる起ル [26オ], おごる奢ル [27ウ], おしつける押付ル [27オ], おしとりする押取スル [26ウ], おしのける押除ル [27オ], おしへる教ヘル [26ウ], おしやる押ヤル [27ウ], おしよせる押寄ル [27ウ], おす押ス [26オ], おそふ襲フ [24ウ], おちついている落付テ居ル [26オ], おつる落ル [25ウ], おどす畏ス [27ウ], おどろく驚ク [25オ], おとろへる劣ル [24ウ], おひかける追ヒカケル [26オ], おひだす追出ス [25ウ], おひちらす追ヒ散ラス [26ウ], おひやる追ヒヤル [26オ], おひをろす追ヒ下ス [27オ], おもひだす思ヒ出ス [25オ], おもふ思フ [25オ], おる織ル [25オ]

「か」

かいする解スル [35オ], かいせいする改正スル [33ウ], かうえきする交易スル [33オ], かがむ屈ム [34オ], かがやく輝ク [33ウ], かきしるす書記ス [35ウ], かが嗅グ [35オ], かくれる隠レル [33オ], か

こむ囿ム [33 ウ], かざる飾ル [33 オ], かじる嚙ル [33 ウ], かす借ス [33 オ], かす貸ス [35 オ], かす返ス [35 ウ], かはかす乾カス [34 オ], かへしておく返シテ置ク [35 ウ], かへす返ス [35 ウ], かへりておそふ返リテ襲フ [34 ウ], かへりみる顧ル [35 オ], かへりみる顧ル (考ヘル) [35 オ], かむ囿ム [34 オ], かもす醸ス [33 ウ], かりる借ル [33 ウ], かるんずる軽ンズル [34 ウ], かんかうしておる勘考シテ居ル [35 オ], かんかうする勘考スル [33 オ], かんずる感ズル [33 オ], がてんする合点スル [34 オ]

「き」

きざむ刻ム [91 ウ], きせる着セル [91 ウ], きそふ競フ [91 オ], きたくする帰宅スル [91 オ], きたる来ル [91 ウ], きらふ嫌フ [91 ウ], きりのける切り除ル [90 ウ], きりはなす切り離ス [90 ウ], きりをとす切り落ス [90 ウ], きる着ル [91 ウ], ぎろんする議論スル [91 ウ], ぎんみする吟味スル [91 オ]

「く」

くだく碎ク [62 オ], くだす下ス [62 ウ], くもつておる曇テ居ル [62 ウ], くらべる比較ル [61 ウ], くるしめる苦メル [62 オ], くるはせる狂ハセル [62 ウ], くわへる加ヘル [62 ウ]

「け」

けがす穢ス [68 ウ], けす消ス [68 ウ], けつじやうする決定スル [68 ウ], けつだんする決断スル [68 ウ], けんやくする儉約スル [68 ウ], げんする減スル [68 オ]

「こ」

こがす焦ス [76 ウ], こゝろみる試ミル [76 ウ], こたへる答ヘル [75 ウ], こふ請フ [76 オ], こやす肥ヤス [75 ウ], ころす殺ス [76 ウ], こえる越ル [76 オ], こんいんする婚姻スル [75 ウ]

「さ」

さいそくする催促スル [87 ウ], さがす探ス [87 オ], さからふ逆フ [87 オ], さけきらふ避嫌フ [86 ウ], さけふ叫フ [86 オ], さける避ル [86 オ], さげる下ゲル [87 オ], さゝへる支ヘル [86 ウ], さずける授ケル [86 ウ], さだめる定メル [86 オ], さまたげ妨ゲ [86 ウ], さまたげる妨ゲル [86 ウ], さらす晒ラス [86 オ], さわぐ騒ゲ [86 ウ], さんする産スル [87 オ], さんぼする散歩スル [87 ウ], ざんする譏スル [86 オ]

「し」

しかける仕掛ル [105 ウ], したがふ従フ [102 オ],

しつておる知テ居ル [104 ウ], しやうする生スル [104 オ], しやくかする借家スル [105 オ], しやする謝スル [105 ウ], しやべる喋ル [104 ウ], しやめんする赦免スル [103 ウ], しゆつたつする出立スル [102 ウ], しゆつぢんする出陣スル [105 ウ], しゆつぱんする出版スル [102 ウ], しゆつぱんする出帆スル [102 ウ], しらくする刺路スル [103 オ], しらせる知ラセル [103 オ], しれる知レル [105 ウ], しんかうする信仰スル [102 ウ], しんしやくする斟酌スル [104 ウ], しんろうする辛勞スル [105 オ], じうする住スル [102 ウ], じまんする自慢スル [105 ウ], じやうじゆさせる成就サセル [103 ウ], じやまする邪ガスル [103 ウ]

「す」

すいておる好テ居ル [115 ウ], すいりやうする推量スル [115 オ], すぎさる過ギ去ル [115 ウ], すぎゆく過ギ行ク [115 ウ], すぎる過ル [115 ウ], すゝむ進ム [115 オ], すつる廃ル [115 ウ]

「せ」

せうずる生ズル [113 ウ], せはする世話スル [113 ウ], せめとる攻取ル [113 ウ], せんけんする先見スル [113 オ], せんさくする穿鑿スル [113 ウ]

「そ」

そしる謗ル [46 ウ], そゝぐ漚グ [46 ウ], そだてる育テル [46 ウ], そなえる備エル [46 オ], そへる添ル [46 オ], そむく背ク [46 オ], そむく叛ク [46 オ], そめる染ル [46 オ], そりかへる反り返ル [46 ウ], そんけいする尊敬スル [46 ウ], そんする損スル [46 オ], ぞくする属スル [46 オ]

「た」

たかぶる高ブル [39 ウ], たすける助ケル [39 ウ], たすける援ル [42 オ], たゝかふ戦フ [42 ウ], たたき叩キ [38 ウ], たゝきたほす扣キ倒ス [41 ウ], たゝく敲ク [40 オ], たちとゝまる立留ル [40 ウ], たつ立ツ [42 ウ], たのしむ楽ム [39 ウ], たのむ頼ム [41 ウ], たびだちする旅立スル [42 オ], たほれる倒レル [39 ウ], たもつ保ツ [39 ウ], たんさくする探索スル [42 オ], だしてやる出シテヤル [41 ウ], だす出ス [40 ウ], だんじきする断食スル [41 オ]

「ち」

ちかふ誓フ [21 オ], ちかよる近寄ル [21 オ], ちぢむ縮ム [21 オ], ちはなしする乳離シスル [21 ウ], ちやくがんする着岸スル [21 オ]

「つ」

ついでやする追従スル〔48ウ〕, つうべんする通弁スル〔48ウ〕, つかむ抓ム〔48オ〕, つきとうす衝通ス〔48ウ〕, つきはなす衝放ス〔48オ〕, つきをとす衝落ス〔48ウ〕, つたはる傳ハル〔48ウ〕, つゝしむ慎ム〔47オ〕, つとめる努メル〔48ウ〕, つひやす費ス〔48オ〕, つみあける積上ル〔48オ〕, つみする罪スル〔48オ〕, つみだす積出ス〔48オ〕, つめこむ詰込ム〔48オ〕

「て」

ていこうする抵抗スル〔80オ〕, てきとうする適當スル〔80オ〕, てんする傳スル〔80ウ〕, てあふ出逢フ(敵ニ)〔80オ〕, できる出来ル〔79ウ〕, ではる出張ル〔79ウ〕, でんせんする傳染スル〔80オ〕

「と」

とうざける遠ザケル〔18ウ〕, とかす溶ス〔17ウ〕, とじる閉ル〔18オ〕, とどく届ク〔17オ〕, ととのへる整ル〔17ウ〕, とどむる止ムル〔17ウ〕, とどめる止メル〔17ウ〕, とふ問フ〔18オ〕, とらへる捕ヘル〔17ウ〕, とりかこむ取囲ム〔18オ〕, とりかたつける取片付ル〔18ウ〕, とりきめる取極ル〔18オ〕, とりちがへる取違ル(道ナドヲ)〔18オ〕, とりのける取除ル〔18ウ〕, とる取ル〔17ウ〕, どういする同意スル〔18ウ〕

「な」

なかいれする伸入スル〔51オ〕, なく泣ク〔50ウ〕, なぐさむ慰ム〔52ウ〕, なぐさめる慰サメル〔51オ〕, なげおとす投落ス〔52ウ〕, なげく歎ク〔50ウ〕, なげこむ投込ム〔52ウ〕, なげすてる投捨ル〔51オ〕, なげだす投出ス〔52ウ〕, なげる投ル〔52ウ〕, なやます悩マス〔52オ〕, なやむ悩ム〔50ウ〕, ならす馴ラス〔51オ〕, ならふ倣フ〔51ウ〕, なみたをこほする落涙スル〔52ウ〕

「に」

にあふ似合フ〔11ウ〕, にぎる握ル〔12オ〕, にげる逃ル〔12オ〕, にせる似セル〔11ウ〕, にせる贖セル(交物ナドニテ)〔11ウ〕, になふ荷フ〔12オ〕, になる煮ル〔12オ〕, にんする任スル〔12オ〕

「ぬ」

ぬがせる脱ガセル(衣装ヲ)〔23ウ〕, ぬくひけす拭ヒ消ス〔23ウ〕, ぬすみとる盗ミ取ル〔23ウ〕, ぬひはくする縫箔スル〔23ウ〕, ぬふ縫フ〔23ウ〕, ぬる塗ル〔23ウ〕

「ね」

ねがふ願フ〔49ウ〕, ねらふ覘ウ〔49ウ〕

「の」

のがる逃ル〔59ウ〕, のがれる脱レル〔59オ〕, のく退ク〔59オ〕, のける除ル〔59ウ〕, のこらす残ラス〔59ウ〕, のぞむ望ム〔58ウ〕, ののしる罵ル〔58ウ〕, のばす延バス〔58ウ〕, のぼる昇ル(日ノ)〔59オ〕, のみこむ呑コム〔59オ〕, のむ飲ム〔59オ〕, のりしづめる乗沈メル〔59ウ〕, のりだす乗出ス(港ヨリ)〔59オ〕, のる乗ル(船ニ)〔59ウ〕

「は」

はいする廢スル〔9ウ〕, はいする拝スル〔9ウ〕, はうとうする放蕩スル〔10ウ〕, はうむる葬ムル(死人)〔10ウ〕, はかどる撈取ル〔9ウ〕, はかる量ル〔10オ〕, はかる秤ル〔10オ〕, はくじやうする白状スル〔10オ〕, はげます励マス〔8ウ〕, はじめる始メル〔9オ〕, はたらく働ク〔10ウ〕, はつかしめる辱シメル〔9オ〕, はつめいする発明スル〔9ウ〕, はなつ放ツ(役目ナドヲ)〔9オ〕, はれる腫レル〔10ウ〕, ばつする罰スル〔10オ〕

「ひ」

ひきあげる引キ挙ル〔109オ〕, ひきうける引キ受ル〔107ウ〕, ひきおこす引起ス〔109オ〕, ひきかへす引キ返ス〔108ウ〕, ひきこむ引込ム〔108ウ〕, ひきさく引裂ク〔108ウ〕, ひきさげる引下ゲル〔109オ〕, ひきたおす引倒ス〔108ウ〕, ひきだす引出ス〔107ウ〕, ひきとめる引留ル〔108オ〕, ひきぬく引抜ク〔109オ〕, ひきのく引退ク〔109オ〕, ひきはなす引離ス〔109オ〕, ひきはなれる引離レル〔108オ〕, ひきもどす引戻ス〔109オ〕, ひきよせる引寄ル〔109オ〕, ひく引ク〔108ウ〕, ひなんする非難スル〔108オ〕, ひねる捻ル〔107ウ〕, ひらふ捨フ〔108オ〕, ひろかる廣カル〔108オ〕, ひろめる弘メル〔107ウ〕, ひろめる廣メル〔108ウ〕, びしよくする美食スル〔108オ〕

「ふ」

ふいてうする吹聴スル〔72オ〕, ふきけす吹き消ス〔71オ〕, ふきこむ吹き込ム〔71オ〕, ふきたをす吹き倒ス〔71オ〕, ふきちらす吹き散ラス〔71オ〕, ふく吹ク〔71オ〕, ふくやくする服薬スル〔72ウ〕, ふくれる脹レル〔72ウ〕, ふさぐ塞グ〔71オ〕, ふせぐ防グ〔71オ〕, ふるへる震ヘル〔71オ〕, ふんらんする紛乱スル〔71オ〕

「へ」

へらす減ラス〔15ウ〕, へんじする返事スル〔15ウ〕, へんぱうする返報スル〔15オ〕, へんれきする遍歴スル〔15ウ〕

「ほ」

ほうこくする報告スル [14 オ], ほこる誇ル [14 オ], ほじよする補助スル [14 オ], ほへる吼ル (羊ノ) [14 オ], ほめる誉メル [14 オ], ほめる褒ル [14 ウ], ほりだす堀出ス [14 ウ], ほる彫ル [14 ウ], ほる掘ル [14 ウ], ほれる惚ル [14 ウ], ほんやくする翻訳スル [14 オ], ほうちうする膨張スル [14 ウ]

「ま」

まじはる交ル [66 オ], ます増ス [65 ウ], まぜる交ゼル (酒杯ニ水ヲ) [65 ウ], まつ待ツ [65 ウ], まつておる待テ居ル [66 ウ], まどはす惑ス [66 ウ], まねする真似スル [66 ウ], まよはす迷ハス [65 ウ], まよふ迷フ [66 ウ]

「み」

みあげる見上ル [95 ウ], みうしなふ見失フ [95 ウ], みかぎる見限ル [94 ウ], みがく磨ク [95 オ], みさげる見下ル [95 ウ], みすてる見捨ル [95 オ], みだす見出ス [95 オ], みちびく導ク [94 ウ], みつめる見詰ル [95 オ], みのがす見逃ス [94 ウ], みはなす見放ス [94 ウ], みまふ見舞フ [95 オ], みゆるす見許ス [95 ウ], みる見ル [95 ウ], みる視ル [95 ウ], みわけする見分スル [96 オ]

「む」

むきあふて向キ合テ [54 ウ]

「め」

めいする命スル [93 ウ], めぐむ恵ム [93 ウ], めつける目付ル [93 ウ]

「も」

もつ持ツ [111 オ], もとむ求ム [111 オ], もとめる求メル [111 ウ], もとめる要メル [111 ウ], ものわすれする物忘スル [111 ウ], もやす燃ス [111 オ], もる漏ル [111 オ]

「や」

やくそくする約束スル [64 オ], やける焼ル [64 オ], やむ病ム [64 オ], やる遣ル [64 ウ]

「ゆ」

ゆあみ沐浴スル [92 ウ], ゆめみる夢見ル [92 ウ], ゆるす許ス [92 オ], ゆるす免ス [92 ウ], ゆるす許ス [92 ウ]

「よ」

ようじやうする養生スル [37 ウ], よごす汚ス [37 ウ], よごす穢ス [37 ウ], よぶ呼ブ [37 ウ], よむ讀ム [37 ウ], よろこぶ喜ブ [37 ウ]

「ら」

らくるいする落涙スル [53 ウ]

「り」

りうこうする流行スル [22 ウ], りやうちする療治スル [22 ウ], りやくする略スル [22 ウ]

「れ」

れいぎする礼儀スル [43 ウ], れうする獵スル [43 ウ]

「ろ」

ろんせつする論説スル [6 ウ]

「わ」

わいろする賄賂スル [29 オ], わうりやうする押領スル [29 ウ], わく湧ク [29 ウ], わすれる忘レル [29 ウ], わほくする和睦スル [29 ウ]

2. アスペクトの観点からみた『袖珍 英和節用集』の動詞分類

次に、「一般相」, 「持続相」, 「限界相」と項目を分けて、それぞれ『袖珍 英和節用集』における動詞分類の実態を示す。示すのにあたって、たとえば、「な」の部の「なみたをこほする落涙スル」と「ら」の部の「らくるいする落涙スル」などのような場合に一動詞「落涙スル」とした。

① 一般相

動詞の文法意味に対していかなる制限も加えないアスペクトで、語彙の意味に基づき、更に限界動詞、持続動詞、中性動詞と三種類に分けられる。

A 限界動詞

与フ, 荒ラス, 異見スル, 諫メル, 至ル, 言消ス, 言付ル, 言抜ケ, 依頼スル, 射ル (彈丸ヲ), 打消ス, 打殺ス, 打捨ル, 打棄ル, 打捨ル, 打倒ス, 打放ス, 撰り出ス, 撰り除ル, 置キ損フ, 起キル, 起ス, 起リ立ツ, 起ル, 押付ル, 押取スル, 押除ル, 襲フ, 落ル, 追出ス, 追ヒ散ラス, 追ヒヤル, 追ヒ下ス, 思ヒ出ス, 解スル, 改正スル, 隠レル, 借ス, 貸ス, 返ス, 借ル, 合点スル, 着セル, 帰宅スル, 来ル, 切り除ル, 切り離ス, 切り落ス, 砕ク, 下ス, 消ス, 決定スル, 決断スル, 焦ス, 答ヘル, 殺ス, 越ル, 婚姻スル, 授ケル, 定メル, 産スル, 仕掛ル, 赦免スル, 出立スル, 出陣スル, 出版スル, 出帆スル, 成就サセル, 過ル, 攻取ル, 背ク, 叛ク, 扣キ倒ス, 立苗ル, 立ツ, 旅立スル, 倒レル, 出ス, 近寄ル, 乳離シスル, 着岸スル, 抓ム, 衝通ス, 衝放ス, 衝落ス, 出逢フ (敵ニ), 出来ル, 閉ル, 届ク, 捕ヘル, 取囲ム, 取片付ル, 取極ル, 取違ル (道ナドヲ), 取除ル, 取ル, 泣ク, 投

落ス、投込ム、投捨ル、投出ス、投ル、握ル、逃ル、似セル、贖セル(交物ナドニテ)、脱ガセル(衣装ヲ)、拭ヒ消ス、盗ミ取ル、脱レル、退ク、除ル、白状スル、始メル、発明スル、放ツ(役目ナドヲ)、引キ拳ル、引キ受ル、引起ス、引キ返ス、引込ム、引裂ク、引下ゲル、引倒ス、引出ス、引苗ル、引抜ク、引退ク、引離ス、引離レル、引戻ス、引寄ル、捨フ、美食スル、吹聴スル、吹き消ス、吹き込ム、吹き倒ス、吹き散ラス、返事スル、返報スル、報告スル、堀出ス、膨張スル、真似スル、物忘スル、燃ス、漏ル、約束スル、焼ル、遣ル、許ス、免ス、許ス、汚ス、略スル、礼儀スル、忘レル、和睦スル

B 持続動詞

欺ク、溢ル、怒ル、呼吸スル、急グ、痛ム、痊ル、入り込ム、打任セル、打破ル、羨ム、拝ム、補ナフ、奢ル、畏ス、驚ク、劣ル、思フ、輝ク、書記ス、返シテ置ク、醸ス、軽ズル、感ズル、刻ム、嫌フ、苦メル、狂ハセル、加ヘル、減スル、肥ヤス、避嫌フ、妨ゲ、妨ゲル、晒ラス、生スル、刺絡スル、知ラセル、知レル、信仰スル、辛勞スル、住スル、自慢スル、過ギ去ル、過ギ行ク、廢ル、生ズル、先見スル、誇ル、育テル、備エル、添ル、染ル、尊敬スル、損スル、属スル、高ブル、助ケル、援ル、譬へ、楽ム、頼ム、出シテヤル、違ヒ、誓フ、縮ム、追従スル、通弁スル、傳ハル、慎ム、努メル、費ス、積上ル、罪スル、傳スル、出張ル、傳染スル、遠ザケル、溶ス、止ムル、止メル、同意スル、仲入スル、慰ム、慰サメル、歎ク、惱マス、惱ム、馴ラス、似合フ、願フ、覘ウ、残ラス、望ム、延バス、昇ル(日ノ)、廢スル、拜スル、葬ムル(死人)、励マス、辱シメル、罰スル、廣カル、弘メル、廣メル、塞グ、防グ、誇ル、誉メル、褒ル、惚ル、惑ス、迷ハス、迷フ、命スル、恵ム、病ム、穢ス、喜ブ、湧ク

C 中性動詞

商スル、遊ビ、編ム、顕ハス、著ハス、表ハス、洗フ、イジメル、偽ル、祈ル、言張ル、動カス、打ツ、埋ム(死人ナドヲ)、運送スル、撰ブ、延引スル、贈ル、教ヘル、押ヤル、押寄ル、押ス、追ヒカケル、織ル、交易スル、屈ム、嗅グ、囲ム、飾ル、嚙ル、乾カス、返リテ襲フ、顧ル、顧ル(考ヘル)、嚙ム、勘考スル、競フ、着ル、議論スル、吟

味スル、比較ル、穢ス、儉約スル、試ミル、請フ、催促スル、探ス、逆フ、叫フ、避ル、下ゲル、支ヘル、騒グ、散歩スル、讒スル、従フ、借家スル、謝スル、喋ル、斟酌スル、邪广スル、推量スル、進ム、世話スル、穿鑿スル、漑グ、反り返ル、戦フ、叩キ、敲ク、保ツ、探索スル、断食スル、積出ス、詰込ム、抵抗スル、適當スル、整ル、問フ、倣フ、落涙スル、荷フ、煮ル、任スル、縫箔スル、縫フ、塗ル、罵ル、呑コム、飲ム、乗沈メル、乗出ス(港ヨリ)、乗ル(船ニ)、放蕩スル、抄取ル、量ル、秤ル、働ク、腫レル、引ク、非難スル、捻ル、吹ク、服薬スル、震ヘル、紛乱スル、減ラス、遍歴スル、補助スル、吼ル(羊ノ)、彫ル、掘ル、翻訳スル、交ル、増ス、交ゼル(酒杯ニ水ヲ)、待ツ、見上ル、見失フ、見限ル、磨ク、見下ル、見捨ル、見出ス、導ク、見詰ル、見逃ス、見放ス、見舞フ、見許ス、見ル、視ル、見分スル、向キ合テ、目付ル、持ツ、求ム、求メル、要メル、沐浴スル、夢見ル、養生スル、呼ブ、讀ム、流行スル、療治スル、論説スル、獵スル、賄賂スル、押領スル

② 持続相

動作の持続性、連続性を文法形式によって明確に示されるものである。

活テ居ル、落付テ居ル、勘考シテ居ル、曇テ居ル、知テ居ル、好テ居ル、待テ居ル

③ 限界相

動作、作用のある側面を強調するものである。

暖メル、集メル

三. おわりに

以上のように『袖珍 英和節用集』に関して、アスペクトの観点からみた動詞分類の実態分布について調査してきた、本論のおわりにあたって次に、注意事項をいくつか述べることにする。

文脈によっては語彙の意味が変化した時、異なった類に分類し直されることがよくある。「捻る」を例にして『広辞苑』に準を求めてみると、以下のようになる。

- (1) 物を指先でつまんでまわす。源常夏「筒を捻りつつとみにも打ち出でず」。「スイッチを捻る」
- (2) 身体の一部をねじってまわす。枕一本二三「外様(とごま)に捻り向きて」。「腰を捻る」

- (3) つねる。源総角「ことわりは返す返す聞えさせてもあまりあらば、抓（つ）みも捻らせ給へ。「手を捻る」
- (4) 考えめぐらす。くふうする。特に、あれこれ考えて歌や俳句を作る。土佐「からくして、あやしき歌捻り出だせり」。「頭を捻る」「一句捻る」
- (5) 簡単にやっつける。負かす。「軽く捻ってやる」
- (6) 試みにする。浄、歌念仏「若い時は小相撲の一番も捻った俺ぢや」
- (7) わざと普通とちがった風をする。一風変って趣のあるようにする。伎、吾嬬鑑「今度は捻って伊香保の湯治」。浮世風呂呂三「ぐつと捻って俗物なる跋」

このうち、(5) (7) という文では「中性動詞」に属するほか、(1) (2) (3) と (4) (6) の時はそれぞれ「限界動詞」と「持続動詞」の類に分類し直されうる。

そして、「テイル」を後接させる場合、「持続動詞」のそれが現在進行的意味を表したりするのに対して、「限界動詞」のそれが現在完了の意味を帯びる。

参考文献

- 中右 実編、鷲尾龍一・三原健一著 1997『ヴォイスとアスペクト』日英語比較選書7 研究社出版
- 加藤泰彦・福地 務 1989『テンス・アスペクト・ムード』外国人のための日本語例文・問題シリーズ15 荒竹書店
- 町田 健 1989『日本語の時制とアスペクト』株式会社アールク
- 国立国語研究所 1985『現代日本語動詞のアスペクトとテンス』秀英出版
- 寺村秀夫ら編 1982『外国語との対照』講座日本語学11 明治書院
- 金田一春彦編 1976『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房